【2004年度　北京大学図書館実習　講演】

二十世紀中国古典文学の選択と読書状況
Reading and Selection of the Chinese Literature in 20th Century

講演者：王　　余　光＊
Wang Yuguang

訳：戸　川　　愛
Ai TOGAWA

プロフィール

王余光，1959年生。北京大学図書館学学部卒。華中師範大学歴史文献学専攻卒，歴史学博士。武漢大学図書館情報学教授兼副学部長。現北京大学情報管理学部教授兼主任。主な著作に『中国歴史文献学』，『中国文献史・第1巻』，『中国新図書出版業初探』，『名著の閲読』等。

一

昔から，読書は私達が知識を得る重要な手段であった。私達にとって読書が必要か否かということは尋ねるまでもない。しかし二十世紀の末に至り新しい技術の発展に伴うテレビやインターネットの普及により読書人口，特に青少年の読書量は激減している。それにより読書の必要性は多くの学者の注意をひく問題となった。1994年ロシアの雑誌『哲学問題』はその中で『映像時代の読書の運命』と題して各方面の専門家，学者の考えを掲載した。ある学者は「人々はテレビの見過ぎで思考能力が低下し，言語表現が乏しくなる。」としている。テレビの他にもインターネットの出現で私達の生活はより便利になったが，果たしてインターネットは私達に本当により多くの知識を与えてくれたであろうか？最近アメリカの作家キャサリン・ノアーはその答えをノーとしている。キャサリンは『International Herald Tribune』（1999年12月3日）に『有線の世界，揺れ動いている心』と題してその考えを明らかにし「インターネットの発展はその期待に反するものになるかもしれない―　知識を伝播するものではなく，無意味で乱雑な情報を撒き散らすもの。ちょうどCNNの目玉ニュース番組のように，この世界を無味乾燥な言葉と画像で溢れさせている。大きな矛盾が起きている。私達は多くの情報を得れば得るほど，実際に獲得し得る知識は少なく，創造性を欠き，崇高な人文的な芸術作品は少なくなる。それはせいぜいある種のグローバル化した流行言論を次々に生み出し，それを押し売りするだけに過ぎない。」

私も彼女とまったく同意見である。私達は線と線で結ばれたネットワークの世界に身を置きながらも，心は落ち着く先が無く，さまよい漂っている。このように新しい世紀においても，やはり本に慣れ親しむということは必要なことである。本を読むとき，私達の魂は哲人の思想に

＊　北京大学信息管理学部教授

JOURNAL OF LIBRARY AND INFORMATION SCIENCE. Vol. 18, p. 31－36 (2004)

よって洗い清められ，その知識と知恵のもと私達は善悪，美醜を容易に識別することができるようになり，私達自身も更に前へ前へと進んで行くことができる。読書は私達の心を深く広く，強く逞しくし，同時に私達に平穏な精神世界を確立し喧騒で浮ついた外部の世界から遠ざけてくれる。このように，読書は今もなお私達にとって必要不可欠なものであると私は思う。

二

読書は必要不可欠なものである。しかし20世紀において，古典文学はまだ尚その生命力を保ち，多くの読者を引き付けることができたのであろうか?

この疑問は20世紀初頭すでに取り上げられている。科挙の廃止と清王朝の終結により，古典文学と知識人との距離は少しずつ開いていった。中には，線装本（中国の古い本）はみなトイレに捨ててしまえと言う者までいた。これは古典文学の知識体系が20世紀の時代のニーズについて行けなくなったと言うべきであろう。しかし，それは古典文学がその生命力を完全に失ってしまったと言うことにはならない。

五四運動の前後，新教育制度の確立と口語文の推進により，学生の間，特に小中高生にとって，もはや古典文学は必読書では無くなった。しかし伝統教育の影響で当時一部の小中高生は依然多くの古典文学を読んでいた。例えば，1905年生まれの姚名達は中学時代『左伝』，『史記』，『漢書』，『資治通鑑』等を学び，同じ年生まれの蔡尚思も中学時代先秦諸子，韓文，『史記』，『荘子』を読んでいる。1907年生まれの厳北メイは十七歳になる前に先秦諸子，『十三経注ショ』，『史記』，『漢書』，『資治通鑑』，『昭明文選』等を読んでいた。1911年生まれの張舜徽先生は7歳ですでに王氏の『文字蒙求』，段注『説文解字』等の書を読み，その後『四書』，『五経』等を学習した。周一良先生は『畢竟是書生』の中で1030年に大学に進学する前に塾で勉強したのは全て『孝経』，『論語』，『孟子』，『詩経』，『礼記』，『左伝』，『古文辞類ざん』，『史記』，『韓非子』，『尚書』，『周易』，『説文解字』等の古典文学だったと回想している。これらの先人はみな国文学の基礎をしっかり身につけており，又それが彼らのその後の研究方向を決めるものとなった。この年代以降中国の学者は，小中学校の段階において古典文学を系統だって学んだことのある者は少なくなった。

当時は小中学校の学校教育以外でも家庭や社会を通して古典文学に触れる機会がまだ残っていた。何人かの有識者も小中学生に古典文学を読むことを勧めている。

1920年胡適は『詩経』，『論語』，『史記』，『漢書』陶淵明，李白，欧陽修，馬致遠等31種の古典を集めた『中学国学叢書』を作成した。

1924年章太炎は『華国月刊』の第二期第二冊で39種の古文を収めた『中学国文書目』を発表した。しかし張太炎が推薦する『詩毛伝鄭箋』，『春秋左伝杜解』，『二程遺書』，『顔氏学記』，『清服制図』等の古典文学は中高生が読むのには適切ではなく，別に参考書として『読史方輿記要』，『乾隆府庁州県志』等を附している。

小中学生に多くの古典文学を読ませる，特に専門的で難解な古書はその閲読に適していない。1949年以後小中学生は少量の古典詩文のほかは，ダイジェスト版，絵本又は口語体本で間接的に古典文学に接している。

三

五四運動以後，古典文学は小中高生の読書範囲から次第に遠のいていった。大学生や一般の読者にとっては古典文学は依然としてその読書の重要な位置を占めている。多くの学者が熱心に推薦図書のリストを作っている。その中で比較的影響のある物は以下の通りである。

二十年代胡適は『最低限度国学書目』として190種の著名な古書を挙げ，その基礎の上で更に選りすぐった『実在的最低限度的書目』を作っ

ている。胡適の書目（これ以下略して胡目とする）はいくつかの注意すべき点がある。

① “小学”レベルの書は収めない。胡適はその書目の序で「音韻訓古学は学問をする上での道具であり初級学習者を助けるものではない。」と記している。

② 前四史と『資治通鑑』等は収めない。この点については当時から異論を唱える声が後を絶たない。当時，梁啓超はすぐに『評胡適之的“一個最低限度的国学書目”』を記しその中で「私が最も驚いたことは胡君がなぜ史部書を除外したかである。『国学最低限度』と題した書が『三侠五義』,『九命奇怨』を収め『史記』,『漢書』,『資治通鑑』を収めないのは笑い話にもならない。」と強く批判している。梁啓超は史部書は国学の中で最も重要な部分であり省くことができないものとしている。

③ 『紅楼夢』,『水滸伝』等の古典小説を収めている。これらの書は国学の視点から元来学者に重要視されていない。

胡適と時期を同じくして梁啓超も『清華週刊』の記者の申し出に応じて古書約16種を収めた『国学入門書要目及其読法』その後更にそれを絞り『最低限度之必読書目』を作成した。顧 鋼も四書を収めた『有志研究中国史的青年可備閑覧書』を作成した。

三十年代，目録学者の汪辟疆は国学基本書135書をリストアップし，その中の30書を国学の綱領書とした。その後，彼は大学の中文系学生の必読書を20冊リストアップした。それに続いて国学の源となる最も重要な10書を挙げた。

四十年代，銭穆は昆明で研究生のために『文史書目挙要』を作り，1073年『中国史学名著』を出版した。又晩年，香港の中文大学での講義で７冊の本を上げて『中国人所人人必須的書』とした。

これと前後して朱自清は中国の古典書籍を分かりやすく説明した『経典常談』を出版し，読者を古典文学の世界に引き寄せた。その冊子はその後何度も再版され依然として大きな影響を持つ。1947年張舜徽先生は蘭州大学で学生に『初学求書簡目』を挙げその後『中国歴史要籍介紹』,『中国古代史籍挙要』を出版，更に『中国史学名著解題』を編集し学生に史学の重要書籍を紹介した。

五十年代，北京図書館は郭抹若，余平伯，何其芳等が修訂した『中国古代重要著作選目』を推し出した。しかし“古代重要著作”と言うにもかかわらず『周易』,『論語』等の書籍を収めておらず，どうにも理解に苦しむ。

六十年代，屈万里は台湾で『古籍導読』を出版，古代四部書38書を推薦した。

八十年代，台北時報文化出版社は『中国歴代経典宝庫』を出版し，その中の青少年向きの本に45種の古典書籍を収めている。蔡尚思は『書林』の中で『最能代表中国文化的40種書』を発表した。

九十年代になり，教育部は大学生の徳育を提唱し，いくつかの大学ではそれに応じ推薦図書を挙げた。例えば武漢大学の『大学生文化素質教育百部名著導読』，北京大学の『学生応読選読書目』，清華大学の『学生応読書目』。これらの本の中には多くの中国古典文学が挙げられているが納得がいかない点もいくつかある。例えば，清華大学の書目は『周易』,『資治通鑑』の代わりに『易伝・系辞』,『読通鑑論』を挙げている点である。

以上の書目の収める古典文学は大きく八つに分類できる。以下その分類について述べる。

① 四書五経は各書目とも全てに収められており，その中でも『詩経』,『論語』の二書は収録数が最も多い。漢代以来二千年余り，これらの書は中国の政界，学界に大きな影響をもたらして来た。おおよその統計によるとこの五十年間で『論語』,『孟子』,『詩経』はそれぞれ135種，117種，97種の中国語書籍として出版されている。

② 前四史と『資治通鑑』は胡目以外の全ての書目に収められており，その内『史記』，『資治通鑑』の二書の収録数が最も多い。古典書籍の中で『史記』，『漢書』，『資治通鑑』が最も重要視されている。『史記』はこの五十年間で76種もの中国語書籍として出版されている。

③ 先秦諸子は北図書目以外各書目全て収められており，その中で『老子』，『荘子』，『旬子』，『韓非子』，『孫子兵法』の収録数が最も多い。この五十年間のおおよその統計によるとそれぞれの中国語書籍の出版数は123種，65種，32種，75種，65種。

④ その他各書目の収録数が多いのは『論衡』，『壇経』，『顔氏家訓』，『明夷待訪録』で，黄宗イの『明夷待訪録』は蔡尚思と三大学の書目に収められている。この思想史の名著は中国の専制制度を厳しく批判し，中国近代思想の啓蒙に大きな影響を与えた。

⑤ 唐宋詩文は各書目全てに収められている。1949年以前は各書目とも李白，杜甫，白居易，韓愈，蘇　等の個人詩歌を多く収めていたが，1949年以降は『古文観止』，『唐詩三百首』等の選集を多く収めるようになった。これは中国大衆の読書の基本的傾向を端的に表している。

⑥ その他の詩文では『楚辞』，『文選』，『陶淵明集』，『世説新語』が多く収められており，宋以後の詩文はあまり多く収められていない。『楚辞』は中国文学の源泉の一つとして『詩経』とともに重要な位置を占めている。この五十年のおおよその統計によると『楚辞』は98種の中国語書籍として出版されている。

⑦ 古典小説は1949年以前，胡目を除き他の書目には収められていない。以前中国では小説は文学とは認められず，学者に軽視されてきた。拠って胡適が始めて小説研究の重要性を提唱したと言える。胡適は一連の古典小説の考証的な文章を記し，上海亜東図書館と積極的に協力し古典小説の句読点本を出版した。胡適は自らの書目の中でも『西遊記』，『水滸伝』，『儒林外史』，『紅楼夢』等を推薦している。しかしながら1949年以前の他の書目は依然として古典小説を除外している。1949年以後，多くの書目が古典小説を推薦し始め，古典小説の影響も日増しに大きくなっていった。北京市民を対象としたあるアンケート（アンケート回収932件）によると，影響を与えられた国内外の小説の回答で『紅楼夢』第1位，『三国演義』第２位，『水滸伝』第５位，『西遊記』第10位を占めており四大古典小説の影響の大きさが分かる。この五十年のおおよその統計によると『紅楼夢』83種，『三国演義』87種，『水滸伝』62種『西遊記』113種がそれぞれ中国語書籍として出版されている。

⑧ その他の書籍では，『説文解字』，『左伝』の二書が多く収録されている。1949年以前は各書目とも『説文解字』を強く推薦しており，これは治学の伝統即ち書を読むにはまず文字を善く知ってからという影響を受けている。朱自清の『経典常談』の第一篇は『説文解字』でありその中で「以前学問は経典のみに限られていたので学問をするには必ず“小学”から始めなくてはならなかった。現在，学問の範囲は広がったとはいえ古典，古代史，古代文化を研究するには，やはり文字学から始めなくてはならない。『説文解字』は文字学の源であり，又全ての古典の道具である。」としている。

1949年以後このような治学の伝統の影響は少しずつ薄れていき『説文解字』はあまり重要視されなくなった。『左伝』は古代，経部に分類され，歴史学者と文

学者に重要視され，長く広い範囲にわたって影響をもたらしており，この五十年でおおよその統計によると75種の中国語書籍として出版されている。

以上の各種古典文学の推薦状況から見ると多くの名著『詩経』，『論語』，『孟子』，『史記』，『資治通鑑』，『老子』，『荘子』，『旬子』，『韓非子』，『楚辞』，『文選』，『左伝』等は，その生命力を保ち続けているが，『明夷待訪録』，『古文観止』，『唐詩三百首』，古典小説，『説文解字』等は時代の変化と共にその影響力も薄れてきている。全体的に見て二十世紀の古典文学の基本的読書傾向は難解なものから容易なものへ，文語文から口語文へ，オリジナル版からダイジェスト版へ，全集から選集へと移行しており，古典文学の大衆化の傾向を表している。

四

古典文学は二十世紀においても依然その生命力は衰えることなく，多くの読者を引き付けて来た。では，二十一世紀の今日，我々はなぜこれらの古典文学を読む必要があるのだろうか?

1023年，梁啓越は『国学入門書要目及其読法』，『治国学雑話』を記し，この中でなぜ古典文学を読む必要があるのかについて二つの意見を述べている。

一つは中国人で学問を志すものは，みな古典文学を読む必要がある。彼はその『最低限度之必読書目』の後書きの中で「以上の各書は鉱物学を学ぶにせよ，エンジニアを目指すにせよ一読の必要がある。さもなければ中国人で学問をする者とは言いがたい。」と書いている。1942年，朱自清も『経典常談』の中で梁啓超と意見を同じくし「中等以上の教育は古典文学の素養を欠くことはできない，古典文学の価値はその実用においてではなく，その文化においての価値にある。」と述べている。中国人科学者と外国人科学者の違いは，科学においてではなく，文化においてである。中国人で学問をする者にとって古典文学を読む事の意義は正に“文化”この二文字に尽きる。

もう一つは，梁啓超は古典文学を読むだけではなく，“最も価値のある文学”，“心身に有益な格言”にも慣れ親しむ必要があるとして「良い文学というのは情緒を育む道具である。その民族の一員として自らの民族の文学を理解し熟知する事ができて初めて，それは私たちの意識下で根を張り，知らず知らずのうちに醸成される。ありがたい聖人の教えや格言は，もはや私達社会全体の共同意識となっており，私達は社会の一員として，それをしっかり理解してこそ共同意識から外れることなく，事にあったって，その恩恵を蒙る事ができる。」と述べている。

古典文学の名作は私達の心を豊かに潤し，又先人の教えや格言は私達を困惑の暗闇から正しい方向に導いてくれる。二十世紀の九十年代，大きなうねりを何度も経た中国教育界は，梁啓超の言葉の意味を少なからず理解し，学生の徳育を重視し始めた。中国人で学問をする者が古典文学を読む意義は“徳育”の二字にあるといっても過言ではない。

2000年元旦，中国青少年発展基金会と国家図書館は“中華文明聖火リレー”を共同開催し，その中で重要な項目の一つに古典詩歌を学生が一斉に朗読するというものがある。主催者はこれを「古典詩歌の朗読は民族の魂を代代受け継ぎ，伝統を古来から今に伝える大変意義の深いことだ。」としている。最近のある調査によると，73.1％の親と86.7％の教師が古典詩歌の暗誦は伝統文化の継承に役立つと考えており，88.7％の親と96，7％の教師が子供の教養と人格の形成にも良いと考えている。又，94.2％の親と100％の教師が言語能力を高めるのにも有益だと考えている事が分かった。以上の数字から古典文学を通して伝統文化を継承し，教養を高めることができると多くの人が認識していることが分かる。

私達がこのように古典文学を重視するのは，もしかすると中国の悠久の伝統文化が私達に生

まれもって与えた感情に源を発しているのかもしれない。だが，アメリカにおいても名作を学習する，特に古典文学の学習は人々の関心を持つところで，早くも二十世紀初頭コロンビア大学は“文学人文”，“当代文明”の二科目を本科生の必修科目とした。前者はヨーロッパ文学のスタンダードな名著の紹介に力を入れ，後者は哲学と社会理論の名著の学習に力を入れており，いずれも多くの西洋の古典文学を集めている。四十年代アメリカの多くの大学が，これと同様のカリュキュラムを開設した。この何十年間，このような授業に賛否両論がなされてきたが，しかしコロンビア大学やシカゴ大学などでは，今日もこのような授業を行っている。あるコロンビア大学の卒業生は母校がこのような授業を開設し続ける理由について「大学は消費主義とありきたりの平凡趣味が古典文学を脅かそうとしているのをはっきりと分かっており，授業を通してこの弊害を取り除こうとしている。まず，読書というものは往々にして晦渋である，特に今の大学生にとっては尚更である。これは西洋伝統文化に対する崇拝であり，又大学側はこれは必要であると強く信じている……それらは一人一人の教養の一部分となるであろう。」といっている。このコロンビア大学の卒業生はデイビィト・タビーといい，アメリカの雑誌『ニューヨーク』の映画評論家である。1991年48歳の彼は突然母校に戻り“文学人文”，“当代文明”の授業を受け西洋古典文学を再び学んだ。彼がそうしたのは彼自身の知識に対しての危機感からであった。彼はメディアに従事するものとして「メディアは情報提供をするものだが，九十年代に入って，その情報は絶えず変化する非常に不安定なものになってしまって，私達が充分な情報を得るのはとても難しくなっている。これは正しく現代のアメリカ人が落ち着きが無く精神病患者のように成ってしまった原因の一つである。二十世紀末メディアは全てを統括しようと猛威を振るっている。」と危惧している。又彼は「私は多くの情報を知っているが，知識が欠乏している。」「厳格な読書というものは，メディアと私を分離させ，自分だけの世界を探し当てる事なのかもしれない。」とも言っている。

今日我々が読書をする，古典文学を読む事は，そこから知識を得るだけではなく，悠久の文化を継承し，それを更に発展させることでもある。これはもしかすると独立した自己と優れた品格を捜し求める最も良い方法であるかもしれない。